北海道漁村の集落空間構造に関する調査研究
(浜中町琵琶瀬・奔幌戸の追跡調査)

千葉　忠弘[*1]　　丸山　隆司[*2]

A Study on Spatial Composition of Fishing Villages in Hokkaido
(Follow-up Survey of Biwase and Ponporoto Villages at Hamanaka)

Tadahiro CHIBA　　Ryuji MARUYAMA

Abstract–The research that treats spatial composition of fishing village in Hokkaido is a little. This research has aimed to clarify the spatial composition there and the problem on the residence environment. Especially, it is a follow-up survey of Biwase and Ponporoto villages at Hamanaka. As for the fishery of Hamanaka, seaweed can be gathered well. There is a lot of land where seaweed is dried. This place provides for the spatial configuration of the village. Unoccupied land increases because of the rapid increase of the senior citizen and the decline of the fishery, and the drying up place is becoming a wasteland.

Keywords: Fishing Village　Space Configuration　Follow-up Survey

1.　はじめに

漁業集落は、人口規模が小さく都市部から離れ、条件不利地域に数多く存在し、高齢化の進展等、漁業集落を取り巻く環境は近年厳しさを増している。しかし、漁村空間を扱う研究の蓄積は浅く、特に府県と一線を画する集落空間構成を持つとされる北海道漁村を対象とする研究は少ない。(府県漁村は、居住地が狭く、後背地が急な崖であり、集落形態は密居である。一方北海道漁村には、計画的設置集落が見られ、また東部沿岸では昆布漁が多く、集落内には昆布干場を設置し、空間密度が小さいということが既往研究[1)]において指摘されている。)

そこで、この社会的経済的変動が顕著な北海道漁村を対象として、この変動が漁業集落の空間構成にどのように影響し、どのような居住環境上の問題を発生させているかを整理・考察し、漁村における居住環境整備のあり方を探ることを目標に研究を進めている。

現在の北海道漁村は、後継者不足、高齢漁家の増大など、重大な経済的社会的問題を抱えている。これらの問題が今後の居住空間にどのような影響を与えるか把握する必要がある。このような状況下に関わらず、日本建築学会における学術講演に見られる漁村空間研究は、府県を対象とするものがほとんどで、内容は住み方、住環境、圏域構成、集落形態等の実態調査に関わるものがほとんどである。1985 年以降の講演数は年平均 3〜4 編であり、決して多くない。特に北海道漁村の空間構造を扱う研究は極めて少ない。

一方、筆者らは北海道漁村、特に東部沿岸地域の浜中町に関して集落調査を実施し報告してきた。図 1 は昭和 62 年から調査実施している集落立地状況である。本研究は、この研究対象地域であり、平成元年調査実施[2)]した浜中町琵琶瀬 (びわせ)・奔幌戸 (ぽんぽろと) 集落の追跡調査である。特に、高齢化の進展、漁業を取り巻く経済的環境の悪化が、空間構成にどのような影響を及ぼしているのかを、既往研究と比較検討して明らかにする。研究方法は、土地利用現況・集落形成過程 (表 1) により集落空間構成上の特質と居住環境整備上の基礎的問題を把握し、集落の居住環境問題の変動を探るものである。

*1 釧路高専　建築学科　准教授
*2 釧路高専　専攻科

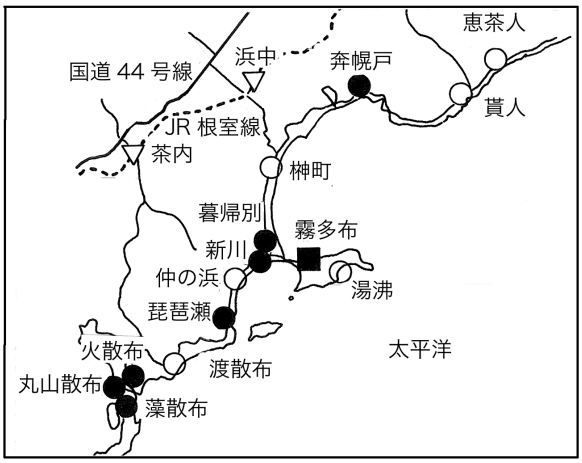

図 1: 浜中町調査対象集落立地概況

表 1: 調査概要

平成18年度調査	
土地利用現況・建物用途	------現地踏査(平成18年7月-8月)
集落形成過程	-------空中写真(平成2,7,11,17年)浜中町史
行政計画の展開過程	---町役場ヒアリング(平成18年11月)
平成元年度調査	
土地利用現況・建物用途	------現地踏査(平成元年10月-11月)
集落形成過程	------空中写真(昭和22,42,49,50,53,60年) 浜中町史・北海道殖民状況報文
行政計画の展開過程	---町役場ヒアリング(平成元年12月、2年1月)

2. 対象地域の概要

対象集落が立地する浜中町は、北海道釧路支庁に位置し、霧多布市街地を中心に 15 ほどの漁業集落を有する（図 1)。この地域は、採藻漁業 (主として昆布) を営み、昆布干場の集落内の占有面積が大きいという特徴を持っており、北海道東部沿岸に多く見られる集落形態である。対象集落の琵琶瀬は霧多布市街地より約 5 km 西南に位置する。奔幌戸は浜中湾をはさんで霧多布市街地の対岸に位置する。

対象集落の人口・世帯数・漁家数の推移を表 2 に示す。琵琶瀬の人口は平成 18 年 423 人であり、同元年 547 人と比べ 22.7 %減少している。世帯数は元年 119 戸から 18 年 122 戸と、ほとんど変化がない。人口減少が進む中で、大家族構成から世帯分離が進行していると予想される。漁家数は元年 102 戸から緩やかに減少し、17 年 87 戸になっている。

奔幌戸における人口推移は元年 263 人から減少し続け、18 年 149 人になり 43.3 %減少している。世帯数も元年 65 戸から 18 年 50 戸に減少した。漁家数も元年 51 戸から 17 年 37 戸と激減している。また両集落とも約 3 割が 65 歳以上の高齢者であり、集落の高齢化が顕著に見られる。

表 2: 対象集落の人口・世帯数・漁家数の推移

	琵琶瀬			奔幌戸		
平成	人口	世帯数	漁家数	人口	世帯数	漁家数
元年	547	119	102	263	65	51
4 年	533	121	102	248	65	50
8 年	495	119	99	211	67	45
1 3 年	470	121	92	172	61	40
1 8 年	423	122	87*	149	50	37*

*は平成 1 7 年の漁家数

3. 対象集落の空間構成

図 2 に平成 18 年時の土地利用現況と主要施設位置を示す。

3.1 建物用途現況

両集落内の建築物は、基本的に住宅とその周辺に位置する複数戸の昆布用倉庫が大半を占め、商業施設や娯楽施設はない。琵琶瀬では、集落北部に文教厚生施設が集中し、集落中心部にはサービス工業施設が設置されている。奔幌戸では、集落西部の内陸部に小学校と保育所があるが、小学校は平成 15 年 3 月に廃校している。保育所も幼児がいないため運営されていない。中心部に浜中消防団第 7 分団がある。

3.2 空家・老朽家屋の分布

琵琶瀬の老朽家屋 (視覚的判断) は 22 戸あり、特に南西部に多く存在する。そのうち 5 軒が空家 (視覚的判断) であり点在している。奔幌戸では老朽家屋および空家の割合が比較的多い。小学校が廃校になったため職員用宿舎がほとんどが空家となっている。

3.3 漁家・干場の分布

琵琶瀬では、漁家は道路に沿って配置されている。干場は基本的に海岸や川沿いに広がるが、近年では道路の発達により内陸部にも道路に沿った形で広がっている。奔幌戸では、海岸線に沿って干場が広がり、倉庫と住宅が設置されている。道道北側の内陸部では、道路に沿って漁家・倉庫が設置され、その裏に干場が広がっている。

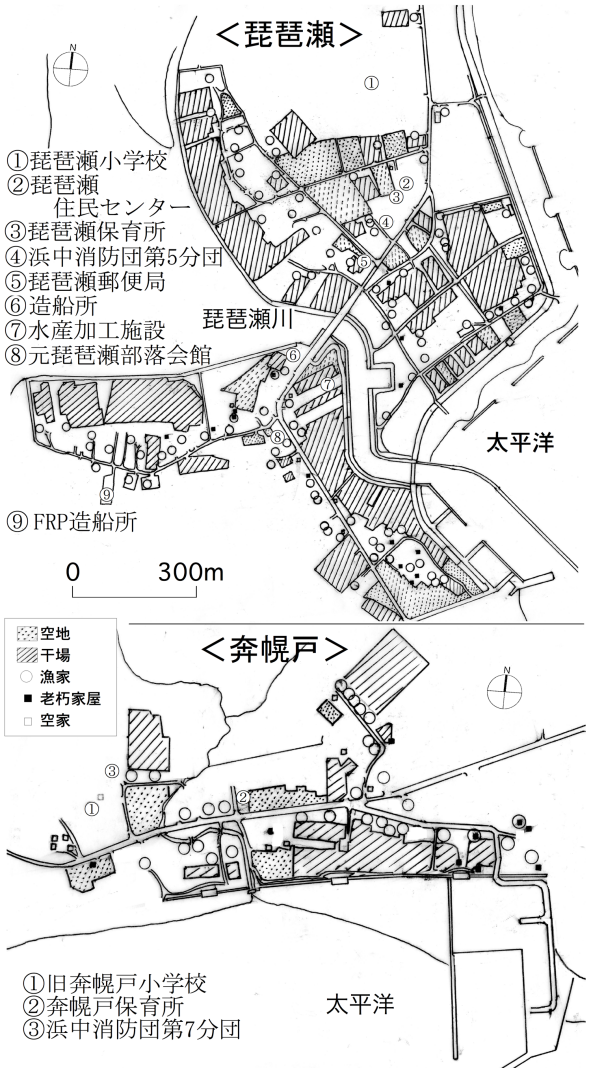

図 2: 平成 18 年の土地利用現況と主要施設位置

3.4 空地、自家菜園の分布

琵琶瀬では、平成元年の調査時の分布とあまり変化ないが、集落全体に空地は拡大し、自家菜園は縮小傾向にある。奔幌戸では、集落全体的に大規模な空地があり、主に老朽家屋や空家の周りに広がっている。自家菜園はわずかに見られるが小規模である。

3.5 街路の整備状況

両集落とも道路の舗装はほぼ完了しており、漁港の整備も終了している。しかし歩道は主要道である道道のみ設置され、不十分である。また、道道を除くほとんどのものが幅員 8m 以下の狭幅員である上、袋小路も多く見られる。

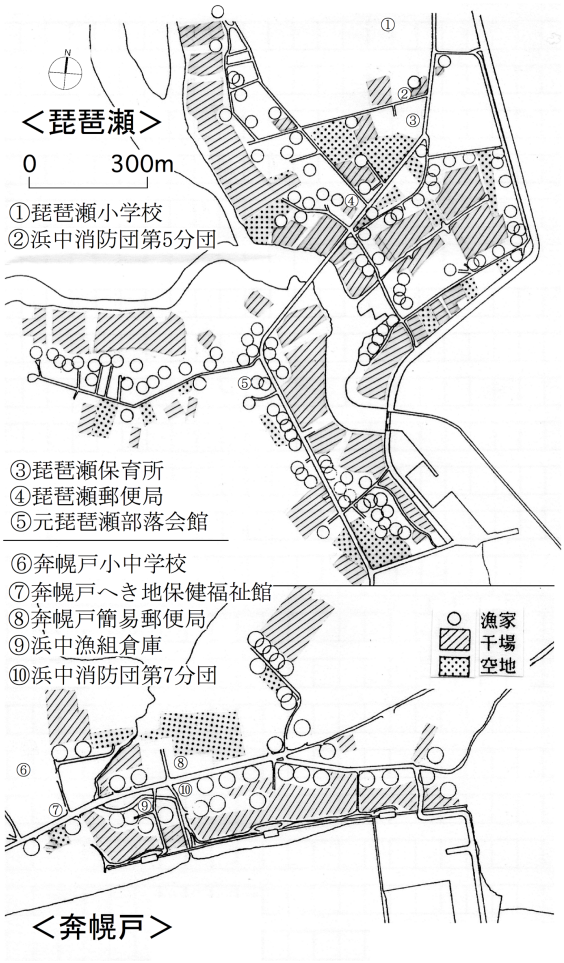

図 3: 平成元年の土地利用現況と主要施設位置
(注釈 1 の既往研究の図を編集)

4. 対象集落の形成過程

既往研究では、平成元年までの形成過程を報告しているが、本報告では、改めて初源的形態を記載した上で、平成 2 年以降の形成過程を記す。なお、平成 2 年以降大きな空間構成の変動は見られないので、平成元年時の現況図 (図 3) のみ示す。

4.1 琵琶瀬

4.1.1 発生契機〜昭和 22 年

琵琶瀬は、明治初期から昆布場が開かれ、明治 9 年に漁場持制[3)]が廃止されると希望者への割渡制となり定住が始まる。昭和 22 年時点では、住居が海岸・河川・引き込み航路等、水辺に対して平行に点在し、道道は現在のように集落を貫いていない。

4.1.2　平成 2 年

琵琶瀬川の護岸工事が開始され、集落東部の引き込み航路が埋め立てられ道路となっている。港から昆布を干場までトラックで運搬する方式に変化した。

4.1.3　平成 7〜11 年

集落中央部に水産加工所が建設されている。集落内部の連絡道路が整備され、道路網が完成しつつある。その他は僅かに建物が増えているが、あまり変化が見られない。

4.2　奔幌戸

4.2.1　発生契機〜昭和 22 年

奔幌戸は、明治 10 年頃から鰊漁場として開けたが定住するものはなく、集落としての形態を持つに至るのは大正期以降であろう。昭和 22 点時点では、集落中央部を貫く道路沿いに住居が見られる程度で取付道路はあまり見られない。

4.2.2　平成 2 年

集落東部の丘陵において、幹線道路である道道が新しく建設されている程度で、集落内に変化は見られない。

4.2.3　平成 7〜11 年

集落中央部は浜中簡易郵便局が取り壊されて、消防団分団のみになっている。その後、小学校も廃校となりこの頃から集落の衰退が始まるものと思われる。

5.　平成元年時の居住環境上の基本的問題

平成元年時に指摘された基本的問題を再記載する。

霧多布市街地を除く浜中町 7 漁業集落は、集落内での昆布漁家の占める割合が大きいと、必然的に集落面積に対する干場面積の占める割合が高くなるため、密度指標が極めて低くなる傾向にある。対象集落における空間構成上の特徴は漁家回りの空間システムに見られ、琵琶瀬は水辺を生産機能上うまく活用した「河川 (海) ー干場ー住居」、奔幌戸は道路によって水辺と間接的に結ばれ「海ー道路ー住居ー干場」という空間システムを持つことである。

両地区は低密度居住のわりに、共に街路の幅員が 8m 以下の細街路が大半を占める狭幅員問題、袋路・T 字路などの線形問題 (街路網として未成熟) が居住環境上の基本問題としてあげられる。また、この街路問題は (調査済みの)6 漁業集落と共通する基本問題であろう。これらの問題発生原因は、基盤整備を行なう際に漁家・干場が既に設置されていたことや住居・干場の結合する漁家に制約を受けたために干場と干場の間を縫うように街路を入れる以外に方法がなかったことなどが考えられ将来的に問題を派生することが予想される。

2 集落の特殊な基本問題として、琵琶瀬では主要幹線の道道が集落南部の住居と干場の間を縫うように通っているという点が上げられ、生産上・生活上支障をきたしていると思われる。また、集落内部に大規模空地が介在しているため景観問題や基盤整備のうえでの非効率などの問題が予想される。生活環境施設 (小学校、住民センター) が集落の北部にあるため通学や利用のしずらさ等の問題がある。緑地公園が不足しているという問題も予想される。奔幌戸では集落が僅かではあるが干場造成に伴って内陸部へ蚕食的に拡大しているものと見られ、中央部に空地が残存することが今後問題となろう。

6.　空間構成の変動と居住環境上の基本問題の変動

両集落ともこの十数年で空間構成上大きな変動は見られない。しかし、道路整備、漁港整備が完了したことから、生産に関わる空間システムに変化が見られた。琵琶瀬では水場 (河川、海) から干場に直接荷下ろししていた「水場ー干場」のシステムが、漁港から道路を利用して干場へ運ぶ「漁港ー道路ー干場」のシステムとなった。それに伴い内陸部にも干場の設置が可能となり、漁家 (母屋) と干場の結合に関わらず干場を自由に設置でき、以前指摘した街路問題を回避できるようになった。ただし、後述するように昆布価格の低迷により昆布漁からの転換に迫られ、むしろ、干場の荒れ地化が問題となろう。また、残存空地は未利用のまま経過するであろう。

奔幌戸では、高齢化の進展、漁業の衰退により、昆布干場が荒れ、空地となる事例が見られ、残存空地と合わせて景観上問題を発生させている。特に、小学校が廃校となり、集落のにぎわいは感じられない危機的状況である。

7.　終わりに

わが国の漁業は現在、高齢化、水産物価格の低迷といった厳しい状況に置かれており、抜本的な漁業生産システムの見直しが課題となっている。浜中町では、昆布を柱とする漁業から、養殖を柱とする漁業への転換を計画的に進めている。これより、昆布干場の位置づけは変化するものと見られ、個別干場を整理し、共同利用・管理の干場を再配置し、景観に配慮した漁村計画が必要であると考える。

謝辞

本報告の調査実施にあたり、浜中町企画財政課、大澤課長、本校専攻科平成 18 年度修了生、鈴木あさみさんの協力を得ました。改めて御礼申し上げます。

注

1) 千葉忠弘「北海道漁村における集落空間構造に関する研究 (その３　主として浜中町琵琶瀬・奔幌戸について)」日本建築学会北海道支部研究報告集 N0.63(平成２年)
2) 千葉忠弘「北海道漁村における集落空間構造に関する研究 (その３　主として浜中町琵琶瀬・奔幌戸について)」日本建築学会北海道支部研究報告集 N0.63(平成２年)
3) 漁場や昆布場の権利を有する人が漁場を独占して経営する制度。この制度は場所請負制度を廃止して作られた。場所請負制度とは、初めは一定の運上金を納めて、その場所におけるアイヌとの交易権を独占したものであった。